

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!
ステップ外部評価でフラッシュアップ!!
ジャンプ評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和4年1月18日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 22	(依頼数) 27
地域アンケート	(回答数) 4	

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870103136
事業所名	グループホーム はなの家
(ユニット名)	4階 桜
記入者(管理者)	
氏名	二宮 啓太
自己評価作成日	令和 3年 12月 20日

<p>【事業所理念】※事業所記入 ～めくもりは我が家のように～ ① 利用者に対して家庭的な環境のもとで生活を営むことができるよう支援する。 ② 利用者が安心と尊厳のある生活を営むことができるよう支援する。 ③ 利用者の人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努める。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 ①本人の暮らし方や思いの共有については、本人や家族又はかかわりのある方より入居前の暮らし方や思いなどの情報をいただき、今後の暮らしの希望を職員間で共有した。 ②介護計画の実践内容については、介護記録を見直し、用紙の様式を一部変更した。介護計画の実践内容を時間に沿って記入できるようにして、気づきやアイデアを皆で共有できやすくなった。 ③個別での外出や重度の利用者が戸外で過ごす機会については、感染症(コロナウイルス、インフルエンザ等)の心配もあるので買い物やドライブの機会をつくることは難しい、気候の良い時は敷地内を散歩して気分転換に繋げている。(令和2年の初詣には重度の利用者をお連れすることが出来た。) ④食事の準備やメニューへの関わりについては、出来ることをして頂けるよう職員が付き添い、下ごしらえや盛り付けを手伝って頂く機会をもった。好みの物を聞いて、メニューに可能な限り取り入れた。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 昨年11月より、Instagramで日々の暮らしの様子や行事時の様子を発信している。 室内で季節毎の行事を楽しめるよう工夫している。正月には職員が鳥居を手作りして、はなの家神社に見立て、お詣りの雰囲気を楽しむようにした。夏には納涼祭を行い、利用者はゲームやスイカ割りを楽しんだり、たこ焼き、焼きそば、かき氷を食べて過ごしたりできるようにした。秋には運動会、冬にはクリスマス会を楽しむ機会をつかった。 地域より「防護服のガウンテクニック(防護服の付け方外し方)について教えてほしい」と依頼があり、11月の地域の防災訓練時に、管理者が実際に行って見せて説明した。</p>
---	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
I. その人らしい暮らしを支える										
(1) ケアマネジメント										
1	思い暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日常生活の中で利用者の思いや暮らし方の希望を汲み取り、把握できるように努めている。	◎		○	入居前に管理者が自宅や病院などを訪問して、本人や家族に希望や意向を聞いて入居者情報シートに記入している。 入居して少しの間は、日々のかかわりの中で聞いたこと等をアセスメントシートに記入している。その後は、個人観察記録に記録して把握に取り組んでいる。	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	職員視点ではなく利用者の立場になって検討するようにしている。					
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	コロナの影響のためご家族やご友人の面会は少ないが、来所時には本人の様子を伝え話す機会を作るようにしている					
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	日々の生活の中での気づきや訴えを記録に残すようにしており、職員で共有することで支援に生かすようにしている。					
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	利用者の表情やしぐさ、日々の言動の中から本人の思いを見落とさないようにしている。					
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	、ご家族の面会時などその時々で話を聞く機会を設けさまざまな情報を得るよう努めている			○	入居時に、本人や家族から聞き取り、生活歴、生活環境、これまでのサービス利用の経過、趣味、好きな食べ物、社会との関わりなどの情報を入居者情報シートやアセスメントシートに記入している。	
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)の現状の把握に努めている。	○	職員は日々利用者一人ひとりの状況や状態を把握するように努めており、知り得た情報に関しては共有している					
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の様子をしっかりと観察したり、関わりの中で状況を把握するよう努めている。					
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	本人がどのようなことを不安に感じているかさまざまな視点から検討し把握に努めている。					
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	1日の過ごし方や流れなどを日々観察し、職員間で情報を共有して把握できるようにしている。					
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	これまで得た情報をもとに、本人の必要としていることを本人視点で検討している。			○	月1回のミーティング(カンファレンス含む)時に、個人観察記録等の情報をもとにして話し合っている。	
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	利用者が日々充実した生活が送れるよう職員間で検討し、実践につなげるようにしている					
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	実践内容や結果を元に改善点や課題を挙げ職員で検討している。					
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	カンファレンスなどの時間や日々の業務の中職員で意見交換し、反映された介護計画を作成している。					
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人やご家族の要望、思いが反映された介護計画を作成している。	◎		○	理学療法士が作成したりハビリ計画の内容を採り入れて計画を作成している事例がみられた。	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	ご家族からの情報や日々の関わりから得た情報を元に本人らしい生活が送れるよう反映した介護計画を作成している。					
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族に協力を得られるような介護計画を作成しているが、コロナの影響もあり協力が難しい状況がある。					
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画内容を元に職員は日々の支援に取り組むようにしている			○	ユニット毎に一冊のファイルに綴じて共有している。計画作成担当者は、日々の中で職員に介護計画の支援内容について、具体的な方法を説明している。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	個人観察記録などに実践した内容を記入し、職員がいつでも確認出来るようにしている			○	介護計画の実践内容を時系列で記録できるように個人観察記録を改善しており、情報量が増えているようだ。	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的な内容を個別に記録している。	○	個人観察記録を活用し、介護計画の実践内容、本人の様子などを詳細に記入している			△	個人観察記録に、実践内容と合わせて言葉、エピソードなどを記録しているが、記入量は少ない。	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	日々の記録や介護計画を記入する中で確認することが出来るような体制が出来ている			○	個人観察記録に、実践内容と合わせて記録したり、ミーティング議事録に記録したりしている。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	基本3カ月おきに見直しを行っており、利用者の状態変化がある際にはその都度見直しを行っている			◎	計画作成担当者が一覽表にして期間を管理し、3ヶ月ごとに見直しを行っている。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月のケアカンファレンスを通して、職員間で話し合いの場を設けている。			○	毎月のミーティング(カンファレンス含む)時に、介護計画に関わらず、現状について話し合っている。また、話し合った内容をもとに、担当職員が月1回ケアプラン評価表を文書でまとめている。	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態の変化があった時には職員間で話し合い、家族にも状況を説明の上現状に沿った介護計画を作成している。			○	体調不良で食事がほとんど食べられなくなった利用者について、計画を見直した事例がある。	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	ケアカンファレンスを毎月実施し問題の解決につながる話し合いをしている。緊急案件がある時にはその都度集まり意見交換をしている。			○	月1回、ミーティング(時期をみて全員が集まったり、少人数で集まったりしている)を行い、議事録を作成している。緊急案件があれば、その日の勤務職員で話し合い、決まったことは伝達ノートに記入している。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日頃より職員とコミュニケーションを図る中良い雰囲気づくりに努め、会議の場でも職員が意見や考えを言えるような雰囲気づくりを行っている。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	月によって日には変わるが、事前に会議日時を伝え勉強会やケアカンファレンスを開催するようにしている。コロナの状況もあり勉強会は開催する機会が少なかった					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	ケアカンファレンスに参加できなかった職員にはユニットリーダーを通して会議内容を伝えるようにしている。			○	参加不参加に関わらず、職員全員が議事録を確認することになっている。必要時には、管理者やユニットリーダーが個別に説明している。	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容や方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	連絡ノートの活用や日々の申し送りなどで伝達をしている。前回より連絡が共有できるようになったが伝達が漏れる事もある			○	家族の要望や伝言については、伝達ノートに記入して申し送っている。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	記録物や連絡ノートなどを活用、職員間での申し送りを通して伝達を行っているが上手く伝達できていないこともあった。			◎		
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者一人ひとりの立場や視点で考え、実践につなげるよう日々努めている					
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	利用者本人に自己決定してもらうような場面作りに努めている。意思疎通が難しい方には職員が代わりに対応している。			○	入浴後の着替えを選ぶ場面をつくっている。10月には食事をバイキング形式(半炊き、おにぎり、唐揚げ、玉子焼き、梨などを用意)にして、好きなものを好きな量選べるようにした。	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	職員目線での対応とならないよう注意し、本人が思いや希望を表現するように日々努めている。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	場面によっては職員が代わりに決めてくれることもあるが、利用者の生活パターンを把握し、本人のペースや習慣を大切にしている					室内で季節毎の行事を楽しめるよう工夫している。正月には職員が鳥居を手作りして、はなの家神社に見立て、お詣りの雰囲気を楽しめるようにした。夏には納涼祭を行い、利用者はゲームやスイカ割りを楽しんだり、たこ焼き、焼きそば、かき氷を食べて過ごしたりできるようにした。秋には運動会、冬にはクリスマス会で楽しむ機会をつくった。日々の中で、みんなで歌集をみながら歌ったり、体操をしたりするような時間をつくっている。
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	◎	利用者が明るく家庭的な雰囲気の中で日々の生活が送れるよう積極的にコミュニケーションを図るように努めている				○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	日々の関わりの中で思いや意向が汲み取れるよう、本人からのサインを見逃さないよう努めている。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	日頃より利用者には丁寧な言葉かけをしており、利用者のプライバシーやプライドを傷つけないよう意識して対応している	◎	◎	△	この一年間では、学ぶような機会は持っていない。職員の気になるような言葉遣いがみられた時には、その都度ユニットリーダーが注意をしている。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であらさず丁寧な介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	利用者が聞き取りやすい声のトーンやさりげない言葉掛けを行う事で、一人ひとりに配慮した対応に努めている			◎	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	トイレ誘導時や入浴時本人が聞き取りやすい声のトーンやペースで声掛けを行い、利用者のプライバシーには配慮して対応している					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る際にはノックをし、声掛けを行ってから入るようにするなど利用者のプライバシー配慮には注意している。				◎	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	仕事で知り得た情報は他に漏れないよう十分注意して個人情報保護に努めている。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者手伝いをしてもらったり、教えてもらう場面を作る事で共に生活していることを認識し大切にすることで関係性の構築に努めている。					
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が声掛けする場面は少ないが互いに支えあい暮らしていくことの大切さを職員は理解している。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)	○	利用者同士でのトラブルがないよう職員は日々注意している。また可能な限り利用者同士が関わる場面を作るように支援している。			○	他利用者やトラブルになりがちな利用者について、介護計画に「他者と一緒にレクリエーションなどを楽しめるように職員が間に入り気配りする」と挙げて支援している。お誕生日の人に、お祝いの言葉をかけてあげるような場面をつくっている。その様子(動画)をInstagramに投稿している。	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	利用者同士でのトラブルが起きないように注意している。もし起きた場合でも職員が間に入りしっかりと対応し解決するようにしている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人やご家族からいろいろと情報収集して把握するように努めている。				/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人に馴染みのある場所など情報収集の中で把握するように努めている。					
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	ご友人が面会に来られお話をする機会はあったが馴染みの場所などに出掛けるなどの支援は出来なかった					
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	コロナの影響で面会も少なく、ゆっくりとお話出来るような機会も少なくなってしまった					
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度的場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	ホーム周辺を散歩する時間などは作ることは出来たが、希望に沿っての外出支援などはほぼ出来なかった	△	△	△	法人の方針で、敷地外への外出を控えている。敷地内を散歩したり、花壇の花を見に出たりすることはあるが、外出の機会は少ない。	
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	利用者の外出支援は職員の対応となり、地域の人やボランティアなどの協力の中での対応は出来なかった				各ユニットのベランダで野菜を育てており、水やりや収穫の際に外気に触れる機会をつくっている。	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	重度の利用者さんでもホーム周辺に散歩に出掛けたり、車を使用して外出するなどの機会を設けている。			○		
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	コロナの影響のため外出する機会を作ることが出来なかった					
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員は日々の関わりの中認知症や心理症状を理解した上で関わり支援を行っている。					半年毎に、利用者個々にアセスメントシート2(できること、できないことシート)を作成している。入浴についても情報収集しており、体を洗う際には、自分で洗えるところは自分で洗えるように支援している。利用者の状態に応じて、洗濯物たたみや新聞折りなどをお願いしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日常生活の中で利用者の変化をいち早く察知し、現状に沿った対応や支援を行うことで自然に維持・向上が図れるように努めている。					
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者ができること、できそうなことを見極め、職員が手を過ぎ過ぎないようにしている。	○		○		
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者一人ひとりの役割や楽しみ、習慣など把握して日々の支援につなげる事ができるよう努めている。				利用者の誕生日に、電子ピアノを弾くことが役割になっている利用者がある。その様子はなな便りに載せている。毎日、夕食後のテーブル拭きをする事が役割の利用者がいる。毎週火曜日に生花が届いており、活けることを利用者に任せている。活けた花は居間に飾っている。10月の運動会の折りには、色画用紙に大きく宣誓の言葉を書いて、職員が利用者と一緒に読みながら選手宣誓を行った。	
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者一人ひとりの楽しみや出来る役割を把握し、生活の中に取り入れ支援につなげることが出来るよう努めている。	○	○	○		
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域との交流が出来る場合には積極的に参加していたが今回は出来ていない。					
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	服装や見出しなみなど出来る限り本人に決めてもらい、本人らしい身だしなみとなるよう支援している。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	定期的に来る移動美容を利用していたが今回は利用が出来なかったため、職員が定期的に散髪を行い整えられるよう対応した。					
		c	自己決定が難しい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	自己決定が難しい方が多いが、職員が本人の代わりとなり支援するよう努めている。					
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節に合った服装になるよう対応している。またご家族にも声掛けを行い本人らしく季節感を楽しめるような洋服を準備してもらっている。					
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	職員の声掛けのタイミングやトーンには注意して本人のプライドを傷つけないようさりげなく対応するようにしている。	◎		○		評価困難
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	理容・美容に関して訪問サービスの美容車を基本利用してもらっている。今回は職員が散髪を行う機会が多かった					
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人の代わりとなり重度の利用者でも本人らしい身だしなみや服装を楽しむように支援している					○

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事が持つ大切さを職員は理解している。				法人の管理栄養士が立てた献立にそって、職員が食材を注文している。野菜は八百屋、魚は魚屋、肉は肉屋、米は米屋から直接届く。調理は、調理専門の職員や介護職員が行っているが、時には、利用者が卵の殻むきや、もやしの根とりなどを行う場面をつくっている。下膳や食器洗いを行う利用者があり、職員は見守っている。	
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食材の下準備や後片付けなど利用者にも一緒になって食事の準備に関わってもらう場面を作るようにして対応している。			○		
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	出来る、出来ないことを見極める中で出来る限り利用者の力が発揮できるよう支援している。					
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	利用者の好き嫌いやアレルギーの有無など職員間で情報を共有し対応している。					
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	季節感を感じられる食材を使用した献立にしたりと食事を楽しむことが出来るように支援している。			○		
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	◎	利用者一人ひとりに合った食事形態にて食事を提供しており、目でも楽しむことが出来るよう盛り付けにも配慮している。					
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	持ちやすいように取っ手のついたコップを使用したり、軽く落としても怪我をしないよう軽いプラスチック素材の食器を利用している。			評価困難		新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	利用者が安心して食事を楽めるよう配慮し、食事介助中でも周囲の様子をさりげなく見守り、対応するようにしている			評価困難		新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	重度の利用者でも食事は他者と一緒にリビングで食べるようにしており、食事のにおいや人の雰囲気、会話などを楽しんでもらえるよう支援している。		◎	評価困難		新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	利用者の状態に合わせた食事の量や形態にて提供をしており、一日に必要な水分が不足しないよう対応している					
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	可能な限り本人の好むおかずに変更したり、水分が少ない利用者には甘いジュースを提供するなど工夫しながら支援をしている。					
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	献立は管理栄養士が栄養バランスを考え献立を立てている。必要時にはアドバイスを受けている。			△		献立は法人の管理栄養士が立てている。食事形態については、随時話し合っているが、定期的に話し合うような機会は持っていない。
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	エタノール消毒を包丁やまな板に使用するなど調理時には衛生面に配慮して対応している。					
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの必要性、重要性を職員は理解し誤嚥性肺炎予防のため起床時や食後口腔ケアを実施している。				口腔ケア時に目視して、異常があれば歯科医につなげている。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアの際には利用者の口腔内の観察も忘れずに行い、異常がないか確認しながら支援している。			○		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	歯科医や歯科衛生士のアドバイスや助言を活かし日々のケアに努めている。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	定期的に義歯洗浄剤を使用したり、職員が利用者に代わって清掃するなど利用者が安全に義歯を使用することができるように支援している。					
		e	利用者の力を引き出ししながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	出来ない部分を職員が支援し、出来る限り本人が口腔内の清潔や義歯の手入れが行えるように日々支援している。また口腔内の観察も忘れず行っている。			評価困難		新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	何か異常がある時には歯科往診を利用できる体制が出来ている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	日中は出来る限りトイレ誘導を行ったり、布パンツを使用するなど排泄の自立の重要性を理解して支援している。				その都度、職員で話し合って支援している。布パンツを使用している利用者について、失禁などがみられても、すぐにパッドや紙パンツに変更するのではなく、現状維持できるように、介護計画で支援を共有して取り組んだケースがある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	便秘が引き起こす問題や影響について理解した中職員は日々の支援を行っている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	個別に排泄チェック表を使用、記入することで利用者の排泄パターンの把握に努めている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	利用者の状態に合わせて、出来る限りトイレやポータブルトイレへの利用が出来るよう支援している。	◎			
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	薬に頼らず水分を多く摂る、冷たい牛乳を飲むなど職員間で出来る内容で改善出来ないか検討し実践につなげている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	一人ひとりの排泄パターンを把握するため個別に排泄チェックを記入し、その人に合った早めの対応が出来るように支援している。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるように支援している。	◎	利用者の状態、現状について家族に報告、相談する中で現状に沿った対応が出来るように対応している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	一人ひとりの状態の変化に対応し、時間や場面によって使い分けするように支援している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	便秘の利用者には起床時に冷たい牛乳を飲むでもらったり、水分を多く摂るなど自然排便を促すように支援している。				
		20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるように支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	入浴の時間や本人の希望なども聞きながら入浴を楽しむことができるように支援している。職員が本人の代わりとなり決める場面もある	◎	
b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるように支援している。			○	ゆっくりと湯船に入ったり、入浴剤を使用したりと入浴を楽しめるよう支援している。				
c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるように支援している。			○	出来る部分は本人に行ってもらい、職員のベースとならないよう本人の力を活かしながら入浴を楽しめるよう支援している。				
d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強ひせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。			○	入浴を拒否される方には入浴日の変更、時間を変えて再度声掛けを行ったりと強制しないよう注意して声掛けをおこなっている。				
e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。			○	入浴前には血圧測定を行い、入浴後の様子もしっかりと観察し配慮して入浴対応を日々行っている。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	利用者の睡眠パターンを把握して夜間の支援・対応を行っている。				薬剤を使用する利用者は、主治医に状況を報告して相談しながら支援を行っている。安定剤を服用している利用者について、精神科医と相談しながら減薬につなげたケースがある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の生活リズムを整えられる支援を行う事で夜間利用者が安眠できるように対応をしている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	夜間眠られないなど何か問題があれば主治医や家族と相談し、適切な対応が出来るよう支援している。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	利用者の状態に合わせて居室にて休息するなどその時の状況に応じて支援している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	いつかの家族と連絡が取れる環境になっており、連絡があった際には直接本人がお話できるよう対応している。手紙に關しては送られてくることはあるがこちらからお返事を返す事は出来ていない。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	電話する機会を作る事が出来ているが、手紙を書く機会がほとんどない。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話については事前にご家族に許可を頂き、電話をするようにしている。こちらから電話する機会は少ない。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙などが届いた時には連絡を取り、本人とお話してもらうような機会を設けている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご家族からお手紙のやりとりや、いつでも気兼ねなく電話をしてもらうよう声掛けしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	職員はお金使う事の意味や大切さを理解して日々利用者の支援を行っている。				/		
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	コロナの影響がありスーパーに買い物に行くなどお金を使う機会を作る事が出来なかった。						
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	近隣にあるスーパーなどを日頃より利用していたがコロナの影響があり外出が出来なかった。						
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	お金を使う場面を作る事が出来なかった。						
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	基本お金は職員で管理しているが、希望がある方は自分で所持して管理してもらうよう支援している。						
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	職員が管理するようにしていることを家族には説明・了解を得ている。						
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに採れない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人やご家族の要望も聞き入れ柔軟な対応できるように努めている。	◎		○	家族の希望があれば、職員が病院受診を支援している。精神科受診については、日々の様子や症状を医師に伝える必要があるため職員が対応している。		
(3) 生活環境づくり											
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	ホーム入口には花を飾り明るい雰囲気を作り、誰でも気軽に出入り出来るような雰囲気作りに努めている。	◎	◎	○	一階の玄関前には寄せ植えの鉢を並べていた。玄関を入ると事務所がある。		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住みかとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそっくりな設えになっていないか等。)	◎	照明の調整や季節感を味わえるような壁紙を作成して飾ったりと過ごしやすい環境作りに努めている。	◎	◎		評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	日差しの調整や照明など身の周りの環境作りには配慮している。				評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	行事や季節に合った飾り付けをしたり、リビングには季節の花を飾るなど居心地のよい環境となるように工夫している。					評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングにはテレビやソファを設置しており、利用者がいつでもゆっくりと過ごす事が出来る環境作りをしている。						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	リビングから見えない場所にあり、使用後は必ずドアを閉めるなど見えないよう注意して対応している。						
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	居室には使い慣れた家具や日常生活品を使用してもらうことで本人が過ごしやすい空間にしている。	◎			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	居室の入り口には名札を貼ったり、トイレやお風呂場には目印を掲示しており分かりやすい工夫をしている。				評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	居室やリビングには物を多く置かないようにしたり、廊下には障害になるような物を置かないようにしている。						
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に入るように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	利用者がいつでも見れるように新聞や雑誌を置いてあったり、必要時には裁縫道具をお渡ししたりといつでも使用出来るようにしてある。						
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感、あきらめ、気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	ユニットの出入口は施錠していない。誰でも出入りが自由に出来るようにしてあり、施錠がもたらす弊害を職員は理解して対応している。	○	◎	△	この一年間では、身体拘束や鍵をかけることの弊害について学ぶような機会は持っていない。職員がマニュアルを自主的に確認することとどまっている。日中、玄関やユニットの出入口は施錠していない。ユニットによっては、利用者の状況により一時的に施錠することがある。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	ご家族には施錠しない大切さや安全確保についてお伝えしている。常時施錠はしないようにしている。						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけるなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	利用者の様子を日々観察する中、その時々々に合う適切な対応を行うことを心掛けている。						
(4) 健康を維持するための支援											
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	職員は利用者の既往歴や現在の病気などを把握した上で日々の支援を行うよう努めている。				/		
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々の対応の中利用者の変化にいち早く気付くことが出来るように努めており、変わりがある際には個人観察に気付きを記入し職員間で共有している。						
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重症化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	気になることがある時には管理者にすぐに相談。必要なことは主治医に報告、指示を受けるようにしている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人やご家族が希望される医療機関に受診や診察が受けられるように支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人やご家族の要望をお聞きし、望まれる医療機関に受診できるように支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	診察の結果についてはご家族に電話やメールにて報告しており、必要時には直接主治医から説明を受けてもらうよう支援している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時には医療機関へ情報提供しており、本人のストレス軽減に努めている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	医療関係者と連絡を密にとり入院後利用者が安心して治療に専念出来るよう支援している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	母体病院連携を図ることにより日頃より緊急時の対応が出来るよう努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	何か気づきがあった時には管理者へ報告しており、看護職には管理者を通して相談や報告を行うようにしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	緊急時には主治医や管理者へ連絡、相談できる体制が出来ている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	母体病院と密に連携を図り、利用者が適切な対応を受ける事で早期発見、治療に努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬の処方時には作用や使用方法、副作用について職員間で共有し理解して対応するように努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬の際には職員二人で声に出して名前や日付けの確認を行い、飲み忘れや誤薬の防止に注意して対応している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	定期処方されている薬を服用することで何か異変はないかを日常的に観察を行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	個人観察に本人の状態や変化を記入しており、異変があれば主治医や管理者へ報告するようになっている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化や終末期のあり方については状態の変化ごとにご家族と話し合いの場を設け、家族の思いを職員は共有して日々の支援を行っている。				入居時に、看取りの指針に沿って説明を行い希望を確認している。その後は、状態変化時に、主治医から家族に説明を行い希望を確認して話し合っている。感染対策期間中の看取り支援では、家族に防護服を着てもらうなどして感染対策を徹底し、一緒に過ごす時間をつかった。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	利用者に関わる全ての職員が情報や方針を共有することができるように努めている	◎	◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	管理者は職員の思いや考えを理解した上で現状出来ることの見極めを行って来ている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	事業所としてできること、できないことをしっかりと説明を行い、同意を得た上で対応を行っている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	主治医や家族と連携を図りながらチームとして支え支援していく体制づくりに努めている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族の心情や精神状況を職員は理解し、家族の支えとなるよう支援している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	コロナの影響があり研修に参加する機会は少なかったが、感染症予防などの資料を配布し周知に努めた。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	母体病院と連携し、スムーズな対応が出来るような体勢となっている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	保健所や市役所のホームページなどから情報を得るようしており、職員で共有することで日々の対応に活かしている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	地域の感染症の情報収集を行いことで、スムーズな対応が取れるようにしている				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は出勤時や外出時には必ず手洗いやうがい、アルコール消毒などを行い、来訪者にも同じように支援している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	日頃より家族との関係作りにも努め、家族と共に支え合っていけるよう支援している。				新型コロナウイルス感染症対策期間のため評価はできない。 年2回、はな便りを発行しており、行事や普段の様子、運営推進会議の内容について報告している。昨年11月より、Instagramで日々の暮らしの様子や行事時の様子を発信している。月1回、職員が利用者の状況を手紙に書いて報告している。手紙の内容がいつも同じにならないように、時々職員が交代して行っている。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	コロナの影響があり面会も少ない中、いつでも気軽に来所出来るような明るい雰囲気作りにも努めている。					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	コロナの影響のためホーム内で家族が利用者と一緒に過ごす時間を作る事は出来なかった。		○			評価困難
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	一か月の様子を手紙にしてご家族に伝える取り組みを継続的に行っている。また電話連絡やホームページ、インスタグラムなどを活用し情報も発信している。		◎			◎
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族との関わりの中から家族が不安に思っていることを引き出しことで把握、報告を行うように努めている。					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	日々の様子や対応について報告し、本人と家族が良好な関係の中支援を継続して行えるよう努めている。					
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	変更時にはその都度ご家族に説明し理解を得るようにして対応している。		○			○
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	コロナの影響のため毎年行っている家族会や行事が開催出来なかったため機会を作る事が出来なかった。					
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	ケアプランの変更時や状態の変化があった時など家族にしっかりと説明して対応策を話し合っている。					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にしている。	○	来所時や電話連絡の際職員から声掛けを行い、気軽に家族の要望や相談が出来る場面を作る事ができるようにしている。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約については管理者が十分な説明を行い、理解、納得を得るようにしている。				主に、管理者とユニットリーダーが窓口となり、家族と電話で話す際に聞いている。	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去時には本人や家族が混乱しないようしっかりと説明しており、トラブルとならないよう退去先とも連絡を取り情報共有を行っている。					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金の改定時には速やかに家族に説明を行い同意を得るように対応している。					
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	コロナの影響もあり運営推進会議が開催出来なかったが、書面にて普段の様子などの近況報告を行っている。			◎	以前より関わりのある小学校から、利用者宛てに手紙が届いた。事業所からは年賀状を出すなどして交流を続けている。運営推進会議の地域メンバーには、管理者が直接自宅を訪ねて資料を手渡している。Instagramでつながった、市内の他介護事業所とはメッセージを交換したり、行事やレクリエーションを参考にしたりしている。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	コロナの影響のため外出し地域の活動や行事に参加する機会を作る事ができなかった。			△		○
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	運営推進会議などが出来ていた時期には事業所からの働きかけを通して認知症についての理解者が増えてきていたと感じている。					
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	コロナの影響もあり地域の方が来られるような機会はほぼない状況であった。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらったりなど、日常的なおつきあいをしている。	×	ホームがある場所や周りの環境もあり地域住民が気軽に来られることはほとんどない。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナの影響のため地域住民やボランティアへの声掛けや働きかけを行う機会が作れなかった。					
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	さまざまな地域資源を活用する事で利用者が安全で楽しく豊かな生活を送れるよう支援しているが出来ていない状況がある。					
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができ、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	出来る事、出来ない事がある中、地域との関わりには積極的に参加するようにしている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	△	毎回の運営推進会議では家族や町内会長、民生委員などが参加されているが今回は運営推進会議が開催出来ず書面での報告を行った	○		○	会議メンバー(全家族、地域住民、地域包括支援センター、市職員)に、報告資料を送付して意見等をもらっている。		
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	書面にてユニットの近況報告や行事報告、職員が参加した研修内容の報告などを行った。			○	報告資料で近況報告、行事報告を行っている。外部評価実施後の会議時(書面開催)に、外部評価結果と目標達成計画について報告している。昨年の自己評価実施後は、報告していない。		
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	書面にてユニットの近況報告や行事報告、職員が参加した研修内容の報告などを行った。			◎	○	10月の会議で、市職員より「報告書は行事や活動状況などの写真があった方がわかりやすいのではないか」という助言があり、12月の運営推進会議より写真をつけて報告資料を作成している。	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	運営推進会議が開催出来ていない。			◎			
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	運営推進会議が開催出来なかったため、各ユニットごとの近況報告や、行事報告を書面にて提出した。						
IV.より良い支援を行うための運営体制											
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	事業所理念の元利用者が家庭的な環境の中安心・安全な生活を送れるよう日々取り組んでいる。						
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	事業所の理念、各ユニットの理念を作成しており、ユニット内に掲示している。	○	◎				
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービスの代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人内での研修開催や、研修に行きやすい環境の整備をしてもらっている。今回は開催出来ていない						
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	研修の内容や職員の希望に沿った対応をもらっている。また研修に参加しやすいよう勤務も配慮してもらっている。						
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者は職員個々の状況把握に努め配慮してくれている。						
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	開設者研修の受け入れや研修などに参加し同業者との交流を図る機会を作るようにしている。						
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	夏休みや正月休みなどを取れるように勤務の配慮をしてもらっている。			◎	◎	○	法人でストレスチェック制度を導入している。
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	施設での勉強会を通して虐待についても学ぶ機会を設けており、知識を深めたり、職員間で意見交換を行っている。						
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	勤務中やユニット別のケアカンファレンスに参加して職員の対応について振り返りや意見交換を行っている。						
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	虐待や不適切なケアが行われないよう日々注意しており、発見した場合には管理者に報告するなど適切な手順、対応を取っている。					○	職員は、不適切なケアを発見した場合は、ユニットリーダーや管理者に報告すること認識している。あざやケガなど小さい傷でも、見つけたらすぐに、「なぜそうなったのか」を話し合うようにしている。さらに、定期的に勉強するような機会も持ってはどうか。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	代表者、管理者は日々職員の疲労やストレスについて気に掛けてくれており、声掛けや勤務の見直しなどをしてもらっている。						
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	身体拘束について職員は日々理解を深めるよう努めており、正しい理解の中に対応に努めている。						
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	内容によって身体拘束に当たらないか管理者や職員間で相談、検討している。						
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	やむ終えない事情がある時以外基本身体拘束を行わず、その点は家族に十分説明し同意を得るようにしている。						
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	施設内での勉強会で権利擁護について学ぶ機会を作り、知識を深め理解に努めている。						
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	制度について利用者や家族に説明したり、相談にのったりと適切な制度が受けられるよう支援している。						
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	様々な制度が利用できるよう関係各機関と連携体制をスムーズな対応が出来るような体制を作っている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	事故や急変時の対応についてのマニュアルを作成しており、適切な対応が出来るよう周知に努めている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	勉強会の時間を利用して学ぶ機会を設けている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットを記入、活用してミーティングなどの場で情報を共有し未然に防ぐことが出来るよう努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	考えられるリスクについて検討するようしており、未然に事故を防ぐことが出来るよう努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情があった際には適切な対応が取れるよう対応方法について管理者と検討するようになっている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情の対応については速やかに対応を行い問題の改善に努めている。また必要時には市町にも相談、報告を行っている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	内容の確認・改善について速やかに検討し、前向きな結果につながるよう関係作りを行っている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	利用者からの苦情や要望については職員が対応しており、内容に関しては職員を通して管理者に報告している。			○	日々の中で個別に訊いている。意見等はほぼ出ていない。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	家族からの要望や苦情について個別にお聞きして対応するようになっている。	◎		○	電話や面会時に訊いている。意見等はほぼ出ていない。
		c	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	管理者が情報提供を適宜行っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者には職員の思いや意見を聞いてもらっている。また日頃より声を掛けてもらい配慮してくれている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	管理者には職員の意見や考えを聴いてもらい、意見交換を行う中で利用者がよりよい支援を受けられるよう検討してもらっている。			○	日々の中やミーティング時に聴いている。面会制限があり、家族が利用者の様子を知る機会が減っていることから、職員の提案で、昨年11月より、Instagramでのリアルタイムな情報発信を始めた。家族等から喜ばれているようだ。
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	各個人サービス評価の意義や目的を理解し、振り返る良い機会として自己評価に取り組んでいる。				外部評価実施後の運営推進会議時(書面開催)時、外部評価結果と目標達成計画を、会議メンバーに送付して報告している。昨年の自己評価実施後は報告を行っていない。モニターをしてもらう取り組みは行っていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題や現状を改めて見直し、今後改善していくための機会として活かすようになっている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	外部評価の結果を踏まえ事業所として取り組むべき目標を計画し実践につなげ取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議の書面報告を通して評価結果、目標達成計画を報告しており、これからの取り組みについてモニターとなってもらっている。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	計画した内容について管理者、職員で話し合い、取り組みについての成果を確認するようになっている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害時のマニュアルを作成しており、職員はいざという時に適切な対応が出来るよう周知に努めている。				年2回、利用者と一緒に自主防災訓練を行っている。11月の地域の防災訓練には、管理者が参加した。地域より、「災害時には地域の障がい者などの受け入れをお願いしたい」という依頼があり、今後相談していくことになっている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	定期的避難訓練や消火方法などの訓練を実施しており、職員が災害時に適切な対応が出来るよう努めている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に点検を行い、問題がないか確認をするようになっている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	今回は消防署の協力の地域住民と合同での防災訓練には管理者のみ参加した。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	今回は合同での防災訓練を実施出来なかったため、管理者が地域との防災訓練に参加した。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	運営推進会議の場では事業所としての取り組みについてのさまざまな報告をしており、情報交換・発信に努めている。				この一年間では、介護相談を受けるような取り組みは行っていない。 地域より「防護服のガウンテクニック(防護服の付け方がし方)について教えてほしい」と依頼があり、11月の地域の防災訓練時に、管理者が実際に行ってみせて説明した。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	ご相談がある時には随時相談支援を行っている。		○	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェイベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナの影響があり以前行っていたカフェやイベントなどは開催出来ていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	以前は実習者の受け入れを行っていたが、現在は行っていない。要望があれば柔軟に対応が出来る体制を整えている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域包括支援センターや他の事業所や市町などと連携を密にとり、積極的に地域活動に参加するよう取り組んでいる。			○	